

統計スポット情報

No. 104

H17.3.28

福井県総務部政策統計室

福井県の推計人口 -平成16年10月1日現在-

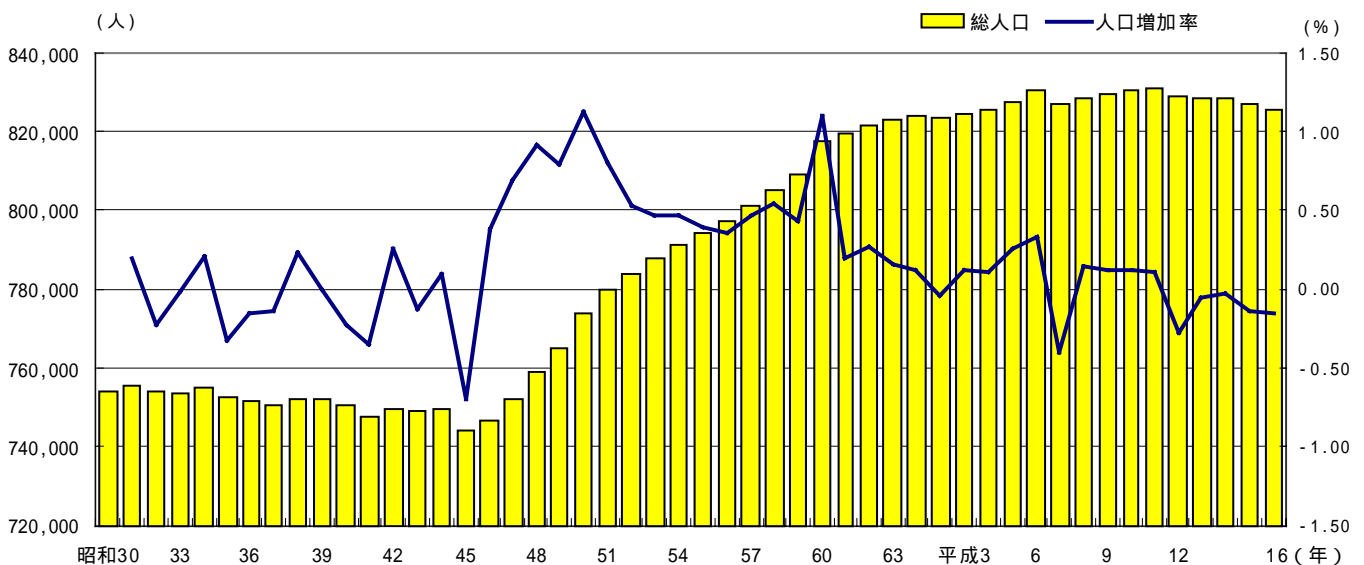
このほど平成16年10月1日現在の福井県の推計人口（年報）を公表しました。

これは、平成12年国勢調査における人口（常住人口）および世帯数の確定値を基礎に、住民基本台帳および外国人登録原票の変更数（出生、死亡、転入、転出者数）を加減したもので、平成15年10月1日から平成16年9月30日までの1年間（以下「平成16年」という。）の状況をまとめたものです。

1 福井県総人口 総人口825,880人、5年連続で人口減少

本県の総人口は、平成16年10月1日現在825,880人で、平成16年の1年間に1,230人（0.15%）減少しました。平成12年以降5年連続で減少しており、減少数は前年を55人上回っています。

図1 総人口の推移

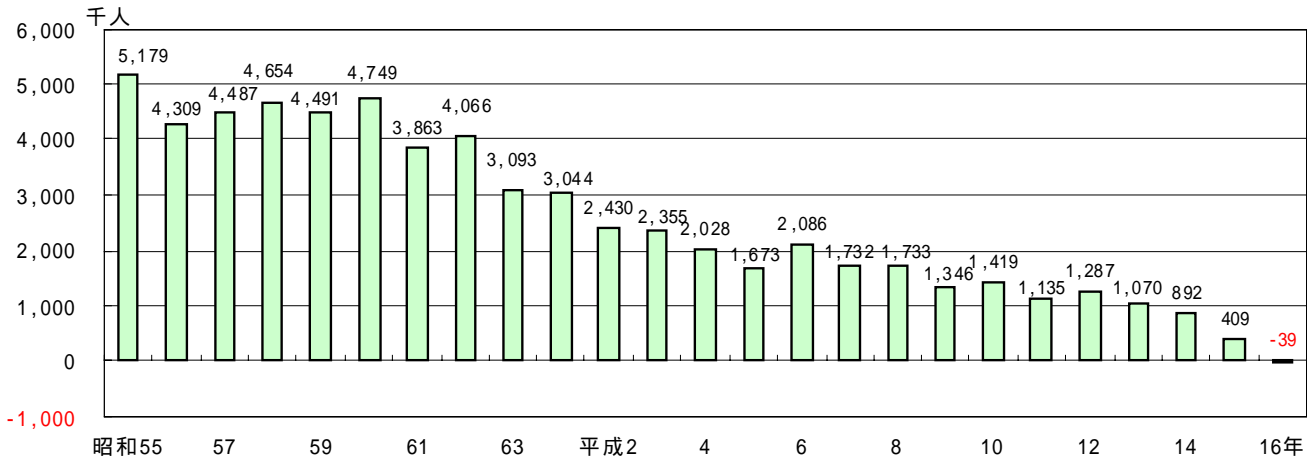


2 自然増減 戦後初の自然減少

平成16年の出生数は7,372人で、前年と比べ288人減少しました。出生数は第2次ベビーブーム期の昭和48年には13,472人でしたが、その後は減少傾向が続いており、特に平成7年以降は10年連続で減少しています。一方、死亡者数は平成に入ってから長寿化による高齢者人口の増加に伴って増加傾向にあります。平成16年は7,411人で、前年と比べ160人増加しました。

この結果、出生数と死亡数の差である自然増減数は39人の減少となりましたが、自然増減の減少は戦後初めてのことです。

図2 自然増加数の推移



3 社会増減 転出超過数は減少

平成16年の県外からの転入者は16,380人で、前年と比べ346人増加しました。一方、県外への転出者は17,571人で、前年と比べ47人減少しました。

この結果、転入者数と転出者数の差である社会増減数は1,191人の減少となり、平成8年以降は12年を除いて社会減少（転出超過）が続いていますが、転出超過数は前年と比べ393人減少しました。

4 年齢別人口 老年人口割合が22.1%に

総人口を年齢3区分別に時系列にみると、年少人口（0～14歳）割合および生産年齢人口（15～64歳）割合が減少し、老年人口（65歳以上）割合が増加しています。平成16年の年少人口は122,588人（14.8%）、生産年齢人口は520,112人（63.0%）、老年人口は182,885人（22.1%）となっており、前年と比べて年少人口が0.3ポイント減少する一方、老年人口は0.2ポイント増加しました。

全国平均と比べると、老年人口の割合が2.6ポイント高く、生産年齢人口の割合が3.6ポイント低くなっています。

また、後期老年人口（75歳以上）割合も増加しており、平成16年は89,666人（10.9%）で、全国平均と比べると、2.2ポイント高くなっています。

(単位：人(県)・千人(全国)、%)

区分	年齢構成別人口				構成割合			
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	75歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上	75歳以上
平成2年	155,998	545,297	121,940	50,927	18.9	66.2	14.8	6.2
7	140,593	539,592	146,728	60,258	17.0	65.2	17.7	7.3
12	130,143	529,017	169,489	73,792	15.7	63.8	20.4	8.9
13	128,279	525,455	174,473	78,032	15.5	63.4	21.1	9.4
14	126,329	523,198	178,463	81,979	15.3	63.2	21.5	9.9
15	124,528	520,980	181,307	85,693	15.1	63.0	21.9	10.4
16	122,588	520,112	182,885	89,666	14.8	63.0	22.1	10.9
16(全国)	17,734	85,077	24,876	11,067	13.9	66.6	19.5	8.7

5 世帯数 1世帯あたり人員は3.07人

平成16年の福井県の総世帯数は268,671世帯で、前年に比べ2,068世帯（0.8%）増え、昭和25年以降、増加を続けています。一方、1世帯当たり人員は3.07人と前年より0.03人減少しており、核家族化の進行に伴い、減少を続けています。

この資料内容の照会は政策統計室統計分析チーム（電話0776-20-0271）へご連絡ください。